



**「未来づくり」の取り組みを深化させ、JR産業の魅力を向上しよう！**

2 0 2 3 年 3 月 1 3 日

日 本 鉄 道 労 働 組 合 連 合 会

J R 連 合 2 0 2 3 春 季 生 活 闘 争 代 表 者 会 議

## ヤマ場に向けた取り組みを意思統一

**JR各単組については、3月14日以降、速やかに回答を引き出すことを確認！**

J R 連 合 は、連 合 「先 行 組 合 回 答 ゾ ー ン」 を 目 前 に 控 え た 3 月 1 2 日、2 0 2 3 春 季 生 活 闘 争 代 表 者 会 議 を 開 催 し、こ の 間 の J R 各 単 組 の 交 渉 経 過 を 共 有 し た う え で、ヤ マ 場 に 向 け た 取 り 組 み の 意 思 統 一 を 図 っ た。

荻山市朗会長は冒頭挨拶にて、他産業で積極的な賃上げの動きが強まる中、厳しい団体交渉を重ねる J R 各単組のこの間の精力的な取り組みに謝辞を述べた。続けて、今次闘争では企業の新採獲得にむけたアピール合戦の様相が強まっていることに危機感を募らせ、「J R 産業もこの流れに遅れをとってはならない」としたうえで、「J R 産業の持続的発展にむけては、賃金・労働条件を中長期的視点で『働きの価値に見合った水準』へと到達させていくことが重要」とし、「今次闘争では J R 各労使による骨太の議論のもと、あらゆる視点から『人財への投資』を実現し、その成果を一過性のものとすることなく、継続性ある取り組みにより、バックキャストの思考で目標賃金に到達させていかなければならない」と訴えた。

その後、J R 各単組の委員長からそれぞれの交渉経過について報告があった。引き続き厳しい交渉が続くことが想定されるものの、組合員と家族の負託に応えるべく、最後の最後まで粘り強く闘い抜く決意が示された。

なお、本会議で J R 各単組については連合の動向等を踏まえ「3月14日以降、速やかに回答を引き出す」ことを確認。併せて、エリア連合を中心としたグループ労組に対する今後の交渉支援についても意思統一を図った。

